

社団法人日本ボート協会 平成19年度 テーマ、体制、組織

理事長
館 次郎

本資料の記載項目について

- ◆ 本資料は平成19年10月5日(金)に秋田県大潟村で開催した「平成19年度評議員会」で配布したドキュメントです。
- ◆ 記載内容には、社団法人日本ボート協会理事会において、既に取り組みが「決定事項」となった項目に加え、平成19年12月時点において取り組みが「各委員会・部会の検討中事項」までの項目も記されています。
- ◆ 「各委員会・部会の検討中事項」の項目は、平成20年に協会の所轄部門が内容を詳細まで検討し、具体的な実施項目、目標、段取り、スケジュールを盛り込んだ「企画案」を策定します。
- ◆ 所轄部門によって策定された企画案は、平成20年の理事会で「取り組み可否」を審議します。取り組み決定した場合は、社団法人日本ボート協会Webや月刊ローイングに随時掲載します。
- ◆ 企画案は内容によって審議時期が異なります。あらかじめご了承ください。

平成19年度の新体制が取り組む四つのテーマ

決定事項

1. ボート人口の増大

- 年齢を問わず、日本全国にボート愛好者を増やす

2. ボート競技の魅力向上

- 漕いでも、観ても、楽しく魅力あるボートを実現する

3. オリンピックでのメダル獲得

- 世界の強豪国に仲間入りする

4. 財政基盤の強化

- 新たな収入源を見出す施策を実施する

テーマ実現のために実施すること

各委員会・部会の検討中事項

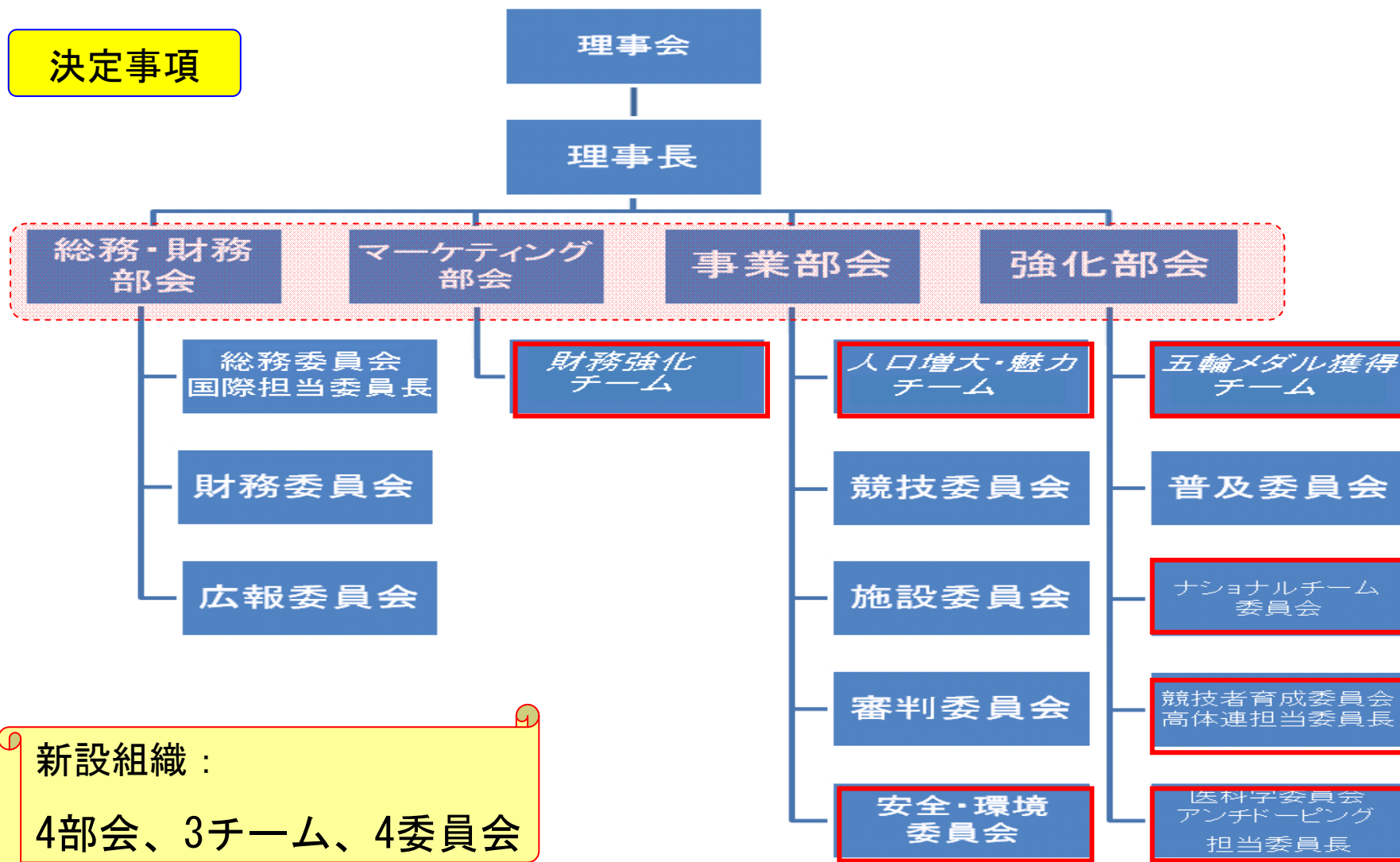
- 協会組織を横断した活動！
- スピーディな検討と対応で諸問題を解決！
- 日本ボート協会と都道府県協会との連携強化！
- I T 活用で業務の効率化とサービス品質の向上！

【協会活動の原点】

**ボートの持つ普遍的価値を高め、広めて
日本のボートをもっと強く、もっと楽しくしよう**

平成19年度 社団法人日本ボート協会 組織図

決定事項



新設組織：

4部会、3チーム、4委員会

社団法人日本ボート協会 平成19年度 事業部会 報告

理事・事業部会長
田中 秀文

本資料の記載項目について

- ◆ 本資料は平成19年10月5日(金)に秋田県大潟村で開催した「平成19年度評議員会」で配布したドキュメントです。
- ◆ 記載内容には、社団法人日本ボート協会理事会において、既に取り組みが「決定事項」となった項目に加え、平成19年12月時点において取り組みが「各委員会・部会の検討中事項」までの項目も記されています。
- ◆ 「各委員会・部会の検討中事項」の項目は、平成20年に協会の所轄部門が内容を詳細まで検討し、具体的な実施項目、目標、段取り、スケジュールを盛り込んだ「企画案」を策定します。
- ◆ 所轄部門によって策定された企画案は、平成20年の理事会で「取り組み可否」を審議します。取り組み決定した場合は、社団法人日本ボート協会Webや月刊ローイングに随時掲載します。
- ◆ 企画案は内容によって審議時期が異なります。あらかじめご了承ください。

社団法人日本ボート協会 事業部会の構成

決定事項

- プロジェクト（2）
ボート人口増大チーム
魅力あるボートチーム
- 委員会（4）
競技委員会、施設委員会、審判委員会
安全・環境委員会

社団法人日本ボート協会 事業部会のミッション

決定事項

- 公正・公平で、安全と環境保全に配慮した「大会運営」と「施設」を実現する。
- 競技者と観客が「一体となって」感動し、盛り上がる大会を実施する。
- ローイングの「新しい楽しみ方」と「魅力的な分野」を開拓する。
- ローイングの「一般認知度」を向上し、ボートの愛好家と競技者の人口を共に増やす。

検討テーマ1

各委員会・部会の検討中事項

- 「選手登録システム」の改善
 - 愛好者から競技者まで
 - すべてのボート人口を登録できる仕組みづくり
- 「大会へのエントリー資格」の見直し
 - 対象：全日本選手権、全日本大学選手権
 - よりわかりやすい、より広い間口づくり
- 「大会」の活性化
 - 対象：全日本軽量級選手権
 - より盛り上げる仕掛けづくり
- 「大会の競技種目」の見直し
 - 対象：全日本社会人選手権
 - より楽しいレースづくり

検討テーマ2

各委員会・部会の検討中事項

- 「都道府県協会」「ブロック※」「全国ボート場
所在市町村協議会」との連携強化
 - すべては「ボート愛する人々」のために
 - 互いに補える「ネットワーク」と助け合える「関係」
- 基礎漕力の向上を促すレガッタ企画
 - 一人ひとりがのびのびと「成長」できる仕組み
 - ひいてはボート界全体の「競技力」が底上げできる仕組み
- ボート人口の拡大と指導者の養成
 - 年齢を問わず、「誰もがボートを好きになる」仕組み
 - ボートを好きになった人が「安心して成長できる」仕組み

※ブロック:北海道、東北、関東、中部、関西、中国、四国、九州

検討テーマ3

各委員会・部会の検討中事項

- **ボートに関心を持つ層を広げる情報**
 - IT活用によるボート情報の一般公開
 - マスコミとクチコミも駆使してボートの楽しさの発信
 - 親子ボート教室（試乗）・市民レガッタの体験談の共有
- **ボートの魅力を伝える観客サービス**
 - レース実況のサービス安定化とその運用の定型化
- **ローイングの新ジャンル開拓**
 - スプリント（300m以下の短距離）レガッタ、お堀レガッタ、大規模な対校戦
 - 各地ならではの遠漕（銚子、羽田、宮島、琵琶湖）
 - 全国水域・レガッタ巡り

社団法人日本ボート協会 平成19年度 強化部会報告

理事・強化部会長
黒川 良望

本資料の記載項目について

- ◆ 本資料は平成19年10月5日(金)に秋田県大潟村で開催した「平成19年度評議員会」で配布したドキュメントです。
- ◆ 記載内容には、社団法人日本ボート協会理事会において、既に取り組みが「決定事項」となった項目に加え、平成19年12月時点において取り組みが「各委員会・部会の検討中事項」までの項目も記されています。
- ◆ 「各委員会・部会の検討中事項」の項目は、平成20年に協会の所轄部門が内容を詳細まで検討し、具体的な実施項目、目標、段取り、スケジュールを盛り込んだ「企画案」を策定します。
- ◆ 所轄部門によって策定された企画案は、平成20年の理事会で「取り組み可否」を審議します。取り組み決定した場合は、社団法人日本ボート協会Webや月刊ローイングに随時掲載します。
- ◆ 企画案は内容によって審議時期が異なります。あらかじめご了承ください。

強化部会体制

新体制（07年5月～）

旧体制（～07年5月）

強化部会：黒川

強化委員会：細田・細淵・小原
ナショナルチーム統括
競技者育成

高体連委員会：三崎
U-19, 高校普及

普及委員会：渡邊・相良・竹内・藤來
指導者養成
安全・人口増大・マシーンローイング大会

医科学委員会：小形
・ ナショナルチームサポート
・ 大会医事
・ 規格艇・機材開発
・ アンチドーピング

事業部会へ

- ・ ナショナルチーム委員会委員会：細淵
ナショナルチーム統括
- ・ 競技者育成委員会：細田・日浦・藤井
競技者育成プログラムの作成実施
高体連担当委員長：藤井
- ・ 普及委員会：渡邊・相良・岡本（昌）
指導者養成
- ・ 医科学委員会：小形・牧田
ナショナルチームサポート
大会医事
規格艇・機材開発
アンチドーピング担当委員長：牧田

社団法人日本ボート協会 平成19年度 協会の財政

理事・総務・財務部会長
朝倉 直樹

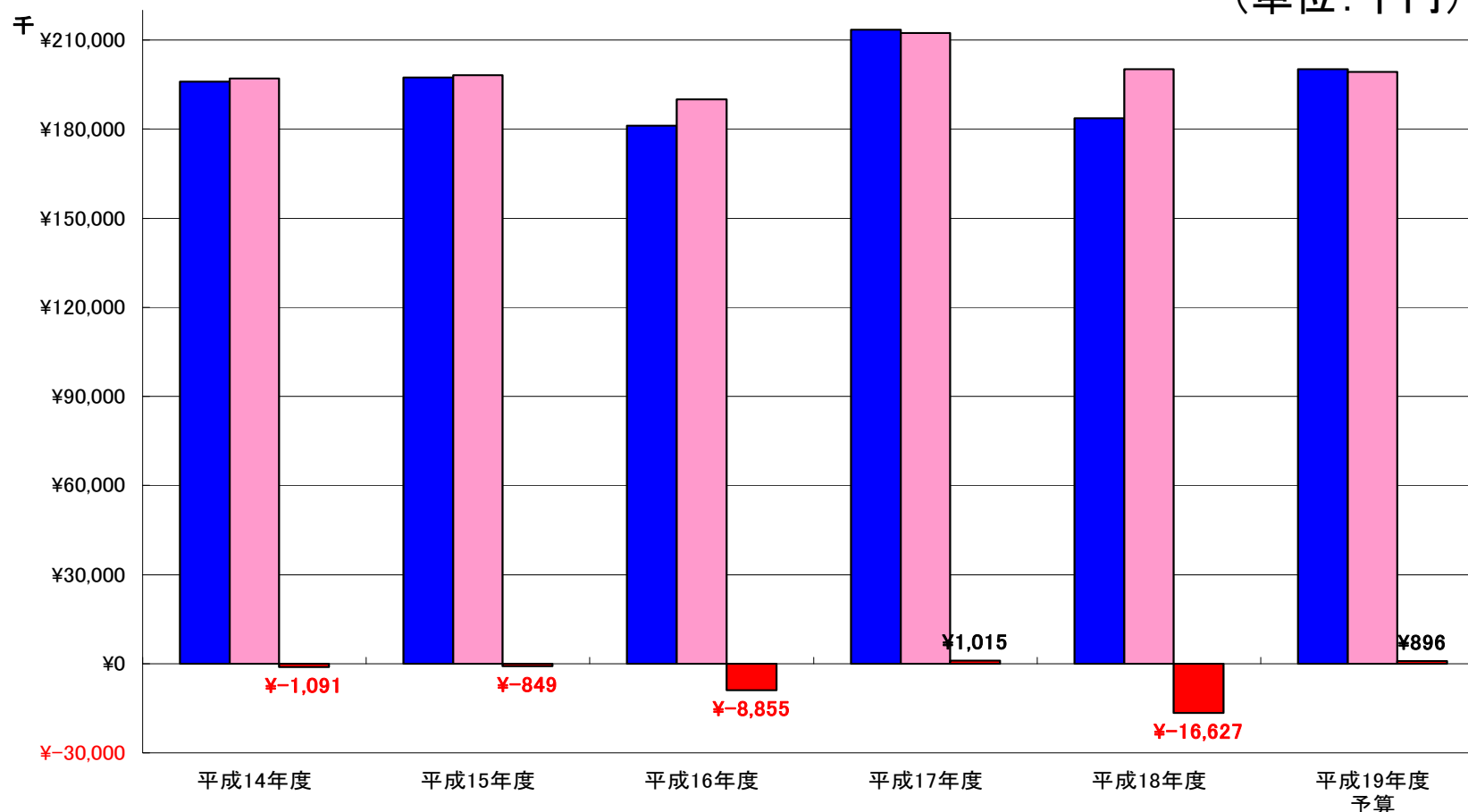
本資料の記載項目について

- ◆ 本資料は平成19年10月5日(金)に秋田県大潟村で開催した「平成19年度評議員会」で配布したドキュメントです。
- ◆ 記載内容には、社団法人日本ボート協会理事会において、既に取り組みが「決定事項」となった項目に加え、平成19年12月時点において取り組みが「各委員会・部会の検討中事項」までの項目も記されています。
- ◆ 「各委員会・部会の検討中事項」の項目は、平成20年に協会の所轄部門が内容を詳細まで検討し、具体的な実施項目、目標、段取り、スケジュールを盛り込んだ「企画案」を策定します。
- ◆ 所轄部門によって策定された企画案は、平成20年の理事会で「取り組み可否」を審議します。取り組み決定した場合は、社団法人日本ボート協会Webや月刊ローイングに随時掲載します。
- ◆ 企画案は内容によって審議時期が異なります。あらかじめご了承ください。

日本ボート協会の収支状況 推移

決定事項

(単位:千円)



■ 収入	¥196,022	¥197,349	¥181,175	¥213,384	¥183,632	¥200,105
■ 支出	¥197,113	¥198,198	¥190,030	¥212,369	¥200,259	¥199,209
■ 収支差額	¥-1,091	¥-849	¥-8,855	¥1,015	¥-16,627	¥896

平成19年10月5日(金) 評議員会



社団法人 日本ボート協会
Japan Rowing Association

課題と施策

各委員会・部会の検討中事項

直面した課題

- 会員数の減少
- 選手登録数の減少
- 補助金の減少
- 海外遠征費用の増大

検討すべき施策案

- 法人会員の開拓
- 寄付金制度の活用
- 助成金制度の活用
- 大会協賛の拡大
- 経費節減

ボート協会の 新たな情報発信媒体 案

理事・総務・財務部会長
朝倉 直樹